

える。表4をみると、わが国のたばこの総売上量と成人のたばこ消費量は、この未成年者のたばこ消費量の推計値より極めて大きい。これは、一部は成人の喫煙の自己申告漏れによるであろうが、自己申告漏れ率は未成年者でより高いと予測できるので、実際に未成年者により消費されているたばこの量は今回の推計値より多いと推察される。わが国は20歳未満の喫煙は未成年者喫煙禁止法で禁止されているので、この量全てが不法販売ということになる。方やアメリカ合衆国では未成年喫煙の規制する法律が州により異なるため、12-18歳が消費しているたばこのわずか50%が不法販売されたものにすぎない[8]。

我々は、わが国のたばこ消費量のうち1.4~1.7%を未成年者が消費していると予測したので、未成年者の喫煙するたばこをすべて未成年者が買ったとすると売り上げ金額では、1996年で524~649億円、2000年では578~707億円を費やしたといえる（1996年の主要な銘柄は1箱220円であったが、2000年には250円になっている）。従って、この売り上げからもたらされるたばこ税は1996年で313~388億円、2000年で354~433億円となる（1996年のたばこ税率は59.7%、2000年の税率は61.3%である）。この莫大な金額の少なくとも一部は、未成年者の喫煙対策に費やされるべきである。

わが国の未成年者の単位人口当たりのたばこ消費量は、アメリカ合衆国のそれに比べて低い傾向にあった[13]。これは、わが国の未成年者の喫煙率と喫煙者1人当たりの喫煙本数の相対的な低さによる[14-16]。しかし、わが国の中高生の1日平均喫煙本数は増加傾向にあるので[5]、今後その差は縮まっていくかもしれない。わが国の成人の自己申告率80%台はアメリカ合衆国での72%という値に比べて極めて高いことを考えると、売上量が成人の喫煙率の低下の程度ほど下がらないことに未成年

者の喫煙量の増加が寄与しているのではないかと推定される。しかし、以前は、喫煙問題があまり社会でも大きな関心を呼んでいなかつたので、喫煙者がより正直に自分の喫煙状況を報告しやすく、近年では報告しにくくなり自己申告率が減少しているためかもしれない。この点についての検討は今後の課題である。

今回、たばこの総売上量と成人のたばこ消費量の差が年々拡大しており、その一部が未成年者のたばこの消費量の増加によるものと推察したが、これは未成年者の喫煙率が一貫して増加したことによるかどうかは未だ不明である。1970年代に実施された未成年者の喫煙率調査の結果もまちまちであり[17-19]、喫煙率の年次動向を推定することは困難である。従って、定期的に今回の全国調査と同様の調査が継続的になされる必要がある。

わが国の、たばこの自動販売機の台数とたばこの総売上量に占める外国たばこの割合は、それぞれが同様の増加傾向を示している。たばこの自動販売機は未成年の喫煙者の最も重要なたばこの入手先であり[1,4,5]、ある大学の学生への調査では、推定喫煙量の36.9%がアメリカたばこであった（調査年のアメリカたばこの市場でのシェアは17.1%）[20]ことを考え合わせると、自動販売機の普及が未成年者にたばこを手に入れやすくし、アメリカたばこのシェアの拡大に一役買っているのではないかと推察できる。また、対面販売の場でも未成年者が容易にたばこを買えることも報告されている[21]。従って、未成年者のたばこ消費を抑えるに方法の一つに入手経路を限定していくことも重要であろう。

#### 謝辞

データ収集に協力してくれた長塚道太さん、川本京子さんに感謝します。

#### 参考文献

- 1) Osaki Y, Minowa, M. Cigarette smoking among junior and senior high school students in Japan. *J Adolesc Health* 1996; 18: 59-65
- 2) 川畠徹朗, 中村正和, 大島明, 日山與彦, 丸谷宣子, 皆川興栄, 他:青少年の喫煙・飲酒行動－Japan Know Your Body Study の結果より－:日本公衛誌, 1991; 38: 885-899
- 3) 川畠徹朗, 皆川興栄, 西岡伸紀, 中村正和、望月吉勝、高橋浩之、他:青少年の喫煙行動の定義の標準化－日本青少年喫煙調査（J A S S）の結果より－. 日本公衛誌. 1991; 38: 859-867
- 4) Osaki Y, Minowa M, Suzuki K, Wada K. Adolescent smoking behavior in Japan, 1996. *Jpn J Alcohol & Dependence.*, 2003;38(6):499-507.
- 5) 尾崎米厚、鈴木健二、和田清、山口直人、簗輪眞澄、大井田隆、土井由利子、谷畠健生、上畠鉄之丞. わが国の中高生の喫煙行動に関する全国調査－2000年調査報告－. 厚生の指標. 2004;51(1):23-30.
- 6) Osaki, Y., Kawaminami, K., Minowa, M. Estimating adolescent cigarette consumption in Japan. *Journal of Epidemiology*. 1999;9(2): 56-60.
- 7) Norusis MJ. SPSS for Windows: Base system user's guide, Release 6.0. SPSS Inc., Chicago, 1993.
- 8) Cummings KM, Pechacek T, Shopland D. The illegal sale of cigarettes to US minors : Estimates by states. *Am J Public Health* 1994; 84: 300-302
- 9) 喫煙と健康問題に関する検討会（厚生労働省）. 新版 喫煙と健康.保健同人社, 東京, 2002.
- 10) 日本たばこ産業株式会社:全国たばこ喫煙者率調査  
[\(.html\)](http://www.jti.co.jp/JTI/tobacco/data/index.html) . 日本たばこ産業株式会社.
- 11) 林和光:たばこデータパル '94. 書楽, 東京, 1993.
- 12) 日本自動販売機工業会. ホームページ (<http://www.jvma.or.jp/>)
- 13) Hatziandreu EJ, Pierce JP, Fiore MC, et al. The reliability of self-reported cigarette consumption in the United States. *Am J Public Health* 1989; 79: 1020-1023
- 14) Nelson DE, Giovino GA, Shopland DR, et al. Trends in cigarette smoking among US adolescents, 1974 through 1991. *Am J Public Health* 1995; 85: 34-40
- 15) Johnston LD, O'Malley PM, Bachman JG. Drug use among American high school seniors, college students and young adults, 1975-1990, Vol. 1: High school seniors. Md: National Institute on Drug Abuse. DHHS publication ADM 91-1813, Rockville, 1991.
- 16) National Household Survey on Drug Abuse: Main findings, 1990. Md: National Institute on Drug Abuse. DHHS publication ADM 91-1788, Rockville, 1991.
- 17) 内山源:中学・高校生の喫煙について－学校保健・健康教育の強力な対応を－. 学校保健研究, 1981; 23: 7-13
- 18) 安栄鉄男:中学生、高校生ならびに非行少年についての喫煙に関する調査研究. 学校保健研究, 1970; 12: 465-474
- 19) 福田勝洋、三宅弘次:喫煙防止教育の試みと評価（その3）. 公衆衛生, 1977; 41: 787-791
- 20) Osaki Y, Mei J, Tanihata T, Minowa M. Cigarette brand preferences of smokers among university students in Japan. *Preventive Medicine*. 2004;38(3):338-342.
- 21) Minowa M, Satomi H. Sale of tobacco to minors. *Lancet* 1992;339:1163

[\(.html\)](http://www.jti.co.jp/JTI/tobacco/data/index.html)

表1 年齢別推計喫煙率、喫煙量(1996年度調査)

1996		1日平均喫煙本数		年間消費本数(百万)		年間たばこ代(億円)		年間たばこ税(億円)	
年齢	推計喫煙率	低位推計値	高位推計値	低位推計値	高位推計値	低位推計値	高位推計値	低位推計値	高位推計値
男									
12	0.0382	0.7272	1.4575	7.7	15.5	0.9	1.7	0.5	1.0
13	0.0642	2.2429	3.1853	40.6	57.6	4.5	6.3	2.7	3.8
14	0.1002	3.6463	4.7850	103.3	135.6	11.4	14.9	6.8	8.9
15	0.1473	4.9527	6.2743	209.3	265.1	23.0	29.2	13.7	17.4
16	0.2064	6.1749	7.6675	381.9	474.2	42.0	52.2	25.1	31.1
17	0.2779	7.3229	8.9762	627.7	769.4	69.0	84.6	41.2	50.5
18	0.3621	8.4052	10.2100	974.3	1183.5	107.2	130.2	64.0	77.7
19	0.4588	9.4291	11.3772	1419.6	1712.9	156.2	188.4	93.2	112.5
男計				3764.4	4613.9	414.1	507.5	247.2	303.0
女									
12	0.0257	1.3371	2.0488	9.2	14.0	1.0	1.5	0.6	0.9
13	0.0345	2.2587	3.1531	21.0	29.3	2.3	3.2	1.4	1.9
14	0.0463	3.0487	4.0997	38.1	51.2	4.2	5.6	2.5	3.4
15	0.0621	3.7333	4.9200	63.2	83.3	7.0	9.2	4.2	5.5
16	0.0833	4.3324	5.6379	102.6	133.6	11.3	14.7	6.7	8.8
17	0.1118	4.8609	6.2712	158.6	204.7	17.5	22.5	10.4	13.4
18	0.1499	5.3308	6.8342	243.3	311.9	26.8	34.3	16.0	20.5
19	0.2011	5.7512	7.3380	361.4	461.1	39.8	50.7	23.7	30.3
女計				997.4	1289.1	109.7	141.8	65.5	84.7
男女計				4761.9	5903.0	523.8	649.3	312.7	387.7

表2 年齢別推計喫煙率、喫煙量(2000年度調査)

年齢	2000 推計喫煙率	1日平均喫煙本数	高位推計値	年間消費本数(百万)		高位推計値	低位推計値	年間たばこ代(億円)	高位推計値	低位推計値	年間たばこ税(億円)	高位推計値
				高位推計値	低位推計値							
男												
12	0.0267	0.5939	1,3717	3.9	3.0	9.0	5.5	1.1	0.3	0.7	0.7	
13	0.0490	2.5009	3,5154	30.9	43.5	3.9	5.4	2.4	2.4	3.3	3.3	
14	0.0822	4.1354	5,3529	87.7	113.5	11.0	14.2	6.7	6.7	8.7	8.7	
15	0.1288	5.5520	6,9454	192.9	241.4	24.1	30.2	14.8	14.8	18.5	18.5	
16	0.1909	6.7915	8,3388	362.4	445.0	45.3	55.6	27.8	27.8	34.1	34.1	
17	0.2700	7.8852	9,5683	600.8	729.0	75.1	91.1	46.0	46.0	55.9	55.9	
18	0.3676	8.8574	10,6612	918.5	1105.6	114.8	138.2	70.4	70.4	84.7	84.7	
19	0.4843	9.7272	11,6390	1348.1	1613.1	168.5	201.6	103.3	103.3	123.6	123.6	
男計				3545.3	4300.1	443.2	537.5	271.7	271.7	329.5	329.5	
女												
12	0.0272	1.8338	2,8163	11.7	17.9	1.5	2.2	0.9	0.9	1.4	1.4	
13	0.0383	2.8296	3,9298	26.1	36.2	3.3	4.5	2.0	2.0	2.8	2.8	
14	0.0525	3.6831	4,8842	47.4	62.8	5.9	7.9	3.6	3.6	4.8	4.8	
15	0.0706	4.4228	5,7114	80.2	103.5	10.0	12.9	6.1	6.1	7.9	7.9	
16	0.0930	5.0700	6,4352	125.2	158.9	15.7	19.9	9.6	9.6	12.2	12.2	
17	0.1204	5.6411	7,0739	182.7	229.2	22.8	28.6	14.0	14.0	17.6	17.6	
18	0.1537	6.1487	7,6415	254.6	316.4	31.8	39.6	19.5	19.5	24.2	24.2	
19	0.1937	6.6029	8,1495	348.7	430.4	43.6	53.8	26.7	26.7	33.0	33.0	
女計				1076.6	1355.4	134.6	169.4	82.5	82.5	103.9	103.9	
男女計				4621.9	5655.5	577.7	706.9	354.2	354.2	433.4	433.4	

表3 成人喫煙率および喫煙者1人当たりの1日平均喫煙量の年次推移

年次	男 喫煙率	喫煙者当たり 1日平均 喫煙本数	女 喫煙率 (%)	喫煙者当たり 1日平均 喫煙本数	男女計 喫煙率 (%)
1973	78.3	22.0	15.1	15.0	45.5
1974	78.8	22.8	16.7	15.5	46.6
1975	76.2	23.8	15.1	16.6	44.6
1976	75.1	24.2	15.4	16.1	44.3
1977	75.1	24.0	15.1	15.6	44.1
1978	74.7	24.3	16.2	15.9	44.5
1979	73.1	24.2	15.4	16.0	43.3
1980	70.2	24.6	14.4	15.7	41.3
1981	70.8	25.0	15.3	15.9	41.8
1982	70.1	25.1	15.4	16.9	41.8
1983	66.1	24.9	13.5	16.3	38.9
1984	65.5	24.9	14.0	16.7	38.8
1985	64.6	24.6	13.7	17.1	38.3
1986	62.5	24.9	12.6	16.4	36.7
1987	61.6	24.9	13.4	17.4	36.7
1988	61.2	24.7	13.1	16.2	36.4
1989	61.1	25.0	12.7	17.3	36.1
1990	60.5	24.7	14.3	18.1	36.6
1991	61.2	25.1	14.2	17.7	36.9
1992	60.4	24.4	13.3	17.2	36.1
1993	59.8	24.8	13.8	17.2	36.1
1994	59.0	24.9	14.8	17.1	36.2
1995	58.8	24.9	15.2	17.2	36.3
1996	57.5	24.3	14.2	17.4	35.1
1997	56.1	24.4	14.5	17.1	34.6
1998	55.2	24.1	13.3	17.1	33.6
1999	54.0	24.3	14.5	16.1	33.6
2000	53.5	24.2	13.7	17.3	32.9
2001	52.0	23.9	14.7	17.2	32.7
2002	49.1	23.3	14.0	16.7	30.9

資料: 1973-1984年 全国たばこ喫煙者率調査、日本専売公社

1985-2002年 全国たばこ喫煙者率調査、日本たばこ産業株式会社

表4 たばこ売上量、成人のたばこ消費量、外国たばこのシェアおよび自動販売機台数の年次推移

年次	総売上量 (A) 億本	成人の たばこ消費量 (B) 億本	差 (A)-(B)	外国たばこ のシェア (%) †	たばこの 自動販売機の 台数 ‡
1973	2667	2558.6	108.3		187648
1974	2842	2738.3	103.3		188154
1975	2898	2816.7	81.7		227244
1976	2887	2857.3	30.0		243972
1977	3011	2846.1	164.9		254530
1978	3014	2929.9	84.1		273950
1979	3069	2882.9	185.9		292220
1980	3040	2818.5	221.2		323310
1981	3076	2948.9	126.7		334610
1982	3103	3000.8	101.8		329850
1983	3060	2802.6	257.8	1.86	334940
1984	3061	2835.2	225.3	2.12	341780
1985	3032	2789.2	242.8	2.47	369900
1986	3084	2717.8	366.2	3.86	388280
1987	3083	2762.4	320.6	9.83	407600
1988	3064	2727.4	336.6	12.14	431500
1989	3138	2800.6	337.4	14.69	443460
1990	3220	2844.1	375.9	15.87	475640
1991	3283	2937.6	345.4	16.51	489000
1992	3289	2834.8	454.2	17.09	495900
1993	3326	2885.1	440.9	17.95	495000
1994	3344	2939.9	404.1	19.59	494000
1995	3347	2986.3	360.7	21.21	498800
1996	3483	2872.2	610.8	22.31	504500
1997	3280	2848.9	431.1	22.41	505000
1998	3366	2765.4	600.6	23.47	527000
1999	3322	2762.1	559.9	24.71	529000
2000	3245	2758.1	486.9	25.08	620000
2001	3193	2712.6	480.4	25.71	629000
2002	3126	2509.1	616.9	26.74	629100

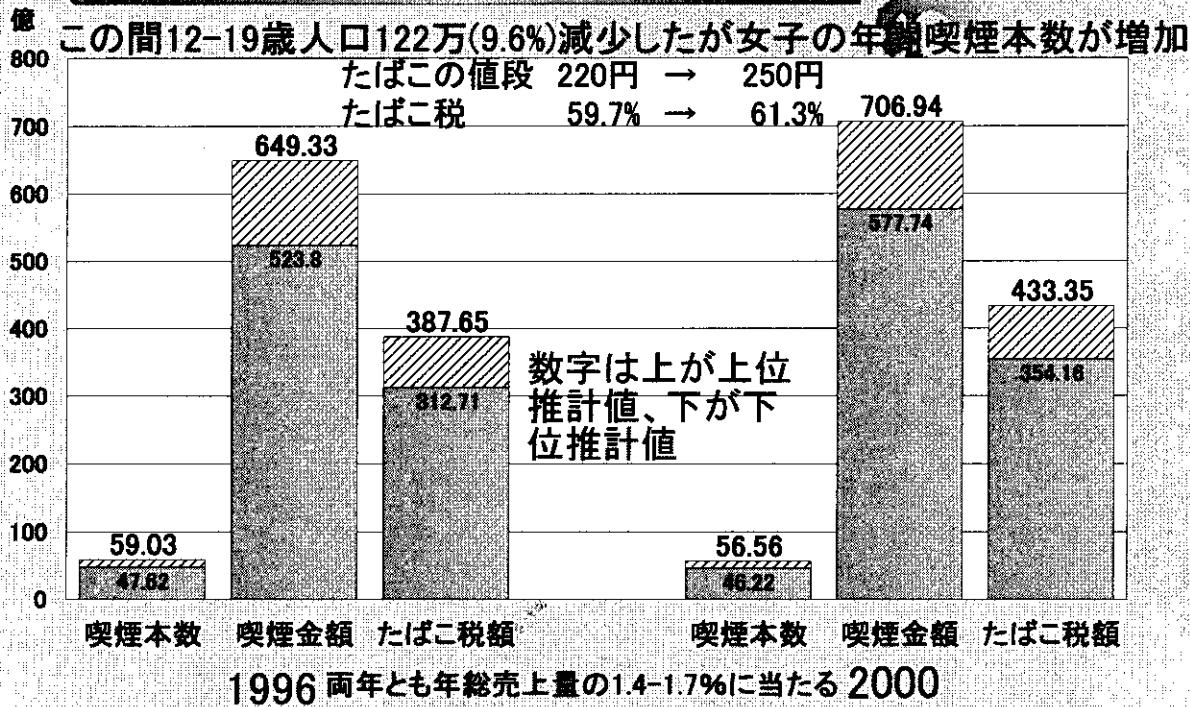
(A) 資料:新版 喫煙と健康 厚生労働省(保健同人社、2002年)

† 資料:たばこデータパル'94、書楽(書楽、1993年)

‡ 資料:日本自動販売機工業会(ホームページ <http://www.jvma.or.jp/>)

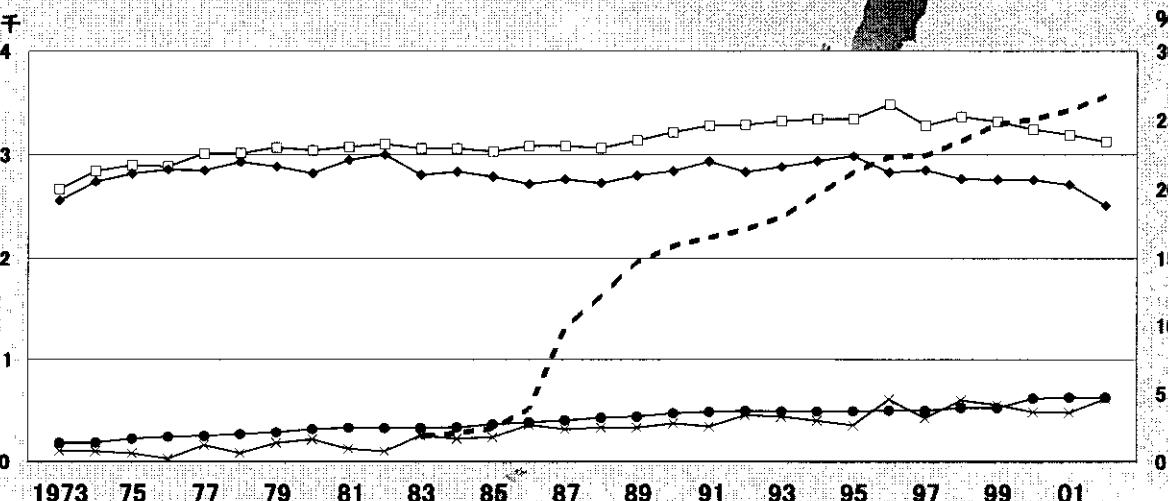
# 未成年者による喫煙量推計(1996,2000)

未成年者の喫煙により不当に得たたばこ税は莫大である



## 年次別たばこ総売上本数、推計成人 喫煙本数、自販機台数

□ 総売上(億本) ○ 成人消費(億本) --- 外国たばこシェア ● たばこ自販機台数(千台)



# 米子市における子どもの喫煙を取り巻く環境についての調査研究

尾崎米厚（鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野）、有藤円香、大野原岳史、小澤公哉、  
樺山紀幸、河村浩二、北浦剛、倉信奈緒美、辰林太一、田中彩子、原尚志、松山ゆかり、  
山本幹枝、和田桃子、横山勝利（鳥取大学医学部医学科）

要旨：鳥取県米子市における青少年の喫煙行動に影響を及ぼすと考えられる環境の実態を明らかにするために、米子市内のたばこ自動販売機、コンビニエンスストアのたばこ販売状況、街頭・交通広告を調査した。自動販売機については近くの学校との距離を地図上で検討した。調査地域は米子市の市街地。調査時期は2003年6月から9月であった。米子市内の学校周辺の自動販売機の状況をみると、学校の周囲250m以内にも全自動販売機の10%弱が存在していた。ほとんどの自動販売機に未成年禁止の広告があった。約1割の自動販売機、または娯楽施設にある自動販売機などは周りの人から見られることなくたばこ入手することができる状況にあった。多くの飲食店を含む娯楽施設は十分な分煙措置を講じていないため、子どもあるいは非喫煙者が受動喫煙をする可能性が非常に高いと考えられた。今後、施設管理者の健康増進法への理解・関心を深めるよう、行政や保健所からのより一層の働きかけが必要であると思われる。教育施設全敷地内での禁煙や、屋外自動販売機の撤廃など行政の介入が求められる。また、大学病院は他の一般病院の模範となるよう率先して自動販売機の撤廃・病院全敷地内禁煙を促進するべきだと思われる。

## はじめに

わが国の青少年のかなりの割合がすでに喫煙者であることが明らかになっているにもかかわらず、積極的な喫煙対策が進んでいないのが現状である。わが国では青少年が喫煙しやすい環境があるといわれ、その代表がたばこの自動販売機である。また、鳥取県では健康ととり計画において小中高校の近くでのたばこの自動販売機の撤去を目標としているが、基礎データがないため取り組みの評価もできない原状にある。

そこで、われわれは、鳥取県西部の都市である米子市において、たばこの自動販売機など未成年者に影響を与えると考えられるたばこ入手経路やたばこ広告についての調査を実施した。

## 対象と方法

調査対象地域は鳥取県米子市である。鳥取県西部の中心都市で、人口140,924人（2003年10月1日）である。

### 1. 米子市街地におけるコンビニエンスのたばこの販売状況

目的；子どもがタバコを購入しやすい環境にあると想像できる、（米子市内の）コンビニ

エンスストアのタバコの販売状況を調査する。

#### 調査項目

- 1) たばこを取り扱っているかどうか？
- 2) 営業時間
- 3) 場所
- 4) 外に自動販売機が設置してあるかどうか
- 5) コンビニの種類
- 6) 未成年喫煙防止キャンペーン広告・アンスの有無
- 7) その他特記事項

調査方法；2人7組に分かれ、米子市市街地内のコンビニエンスストアを訪問調査した。

### 2. 米子市街地におけるたばこ自動販売機設置状況

目的；米子市内の子どもがたばこを購入しやすい自動販売機の数や設置状況を調べることによって、子供へのたばこの影響を考察する。

#### 調査項目：

- 1) 場所（通行人から見やすいかどうか）
- 2) 店の人から見えるかどうか（設置位置）

- 3) 未成年喫煙禁止注意表示の有無
- 4) 通学路に設置してあるかどうか
- 5) 学校からの距離
- 6) その他、特記事項

調査方法：2人7組に分かれ、ゼンリン地図を用いて、全ての路地を歩き、市街地地域の自動販売機を全て調査した。入ることのできる建物にも全て入り、建物内自動販売機も調査した。発見した自動販売機はすべて写真に収め、調査票に観察結果を記載した。学校との距離は見つけた自動販売機の位置を地図上に記録し、小中高校からコンパスで500mおよび250mの円を描き、円の中にはいる自動販売機数を測定した。

### 3. 駅におけるたばこ広告調査

駅ビル・駅ホームにおけるたばこに関する広告調査を行う。駅ビル、駅構内、ホーム、停車中の車両内の広告を観察した。駅構内(3駅 米子駅、後藤駅、東山公園駅)、車両調査(米子駅の2両)を調査対象とした。

### 4. 未成年者が集まる場所の禁煙・分煙状況

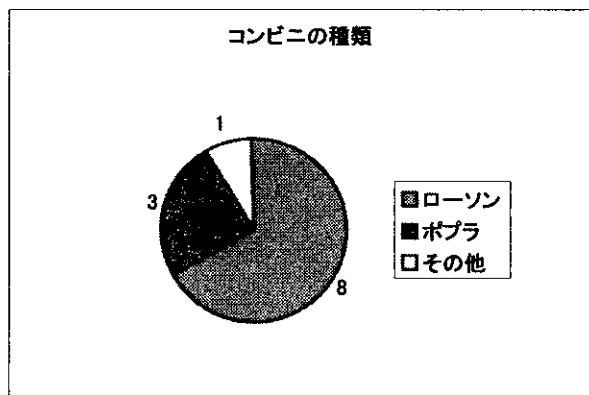
未成年がよく集まると考えられる施設に訪問し、次の項目を調査する。

- 1) 目に見える形での分煙対策がなされているか。(喫煙コーナー、注意書きの有無など)
- 2) 特に未成年に対する配慮はなされているか。
- 3) たばこを実際に売っているか。

主な調査場所：ファミリーレストラン等の飲食店、スーパー・マーケット、ゲームセンター・ボーリング場等の遊技場、スポーツ観戦施設、公共施設(役所、公民館など)。

## 結果および考察

1. コンビニエンスストアにおけるたばこ販売状況 12店の調査を実施した。たばこを取り扱っている店は12店(100%)であった。自動販売機があるのは11店(92%)、未成年喫煙防止キャンペーン有りの店は9店(75%)、未成年喫煙防止キャンペーンの店内アナウンス有りが4店(33%)であった。米子市のコンビニエンスストアはほとんどがポプラかローソンである。ローソンではすべての店で未成年喫煙防止キャンペーンを行っていた。店内アナウンスがあったのはすべてローソンだった。



米子市ではすべてのコンビニがたばこを取り扱っていた。未成年喫煙防止キャンペーンをしていたのは75%であり、すべてのローソンで行われていた。アナウンスをしていたのはローソンだけであった。これより、米子市において、ローソンでは未成年者の喫煙対策をしっかりとしているものと考えられる。しかし、タバコを販売していても、未成年喫煙防止キャンペーンを行っていないコンビニもまだまだ存在し、未成年喫煙の対策がしっかりと行われていないと考えられる。米子市内の子どもを取り巻く喫煙状況について、コンビニは一定の対策は行われているがまだまだ不十分であると考えられる。

### 2. 米子市街地におけるたばこ自動販売機設置状況

米子市の市街地において、165台のたばこ自動販売機を発見した。うち、屋内が59台(36%)、屋外が106台(64%)であった。通行人から見えやすいと考えられた自動販売機は131台(79%)であった。店員から見えると考えられた自動販売機は85台(52%)であった。自動販売機に身永年喫煙禁止の注意表示があったのが、129台(78%)であった。たばこ店、酒店前には2,3台続きで設置してあった。一部、24時間自動販売機が存在した。

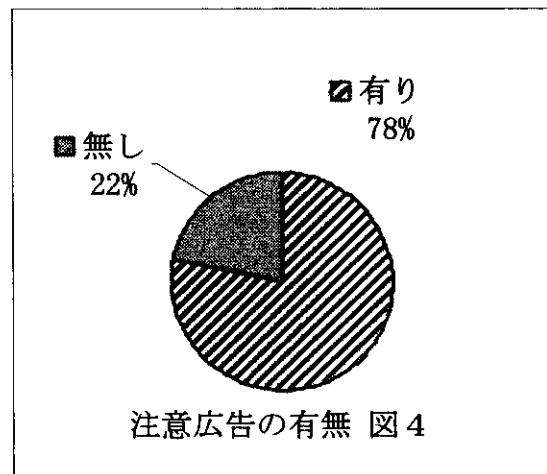
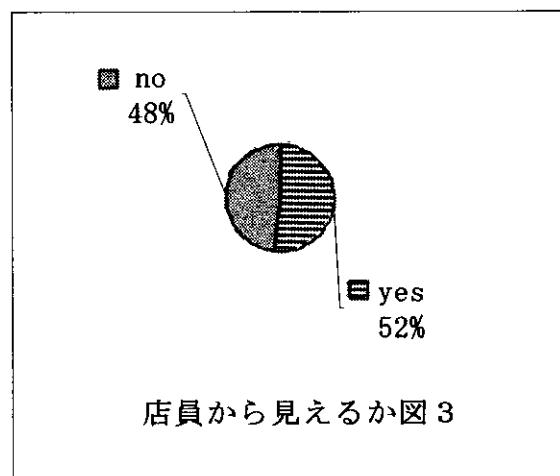
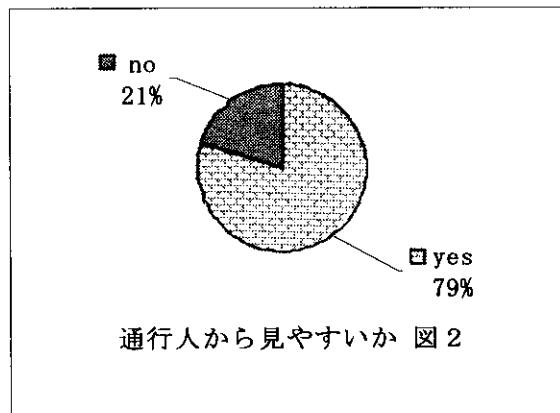
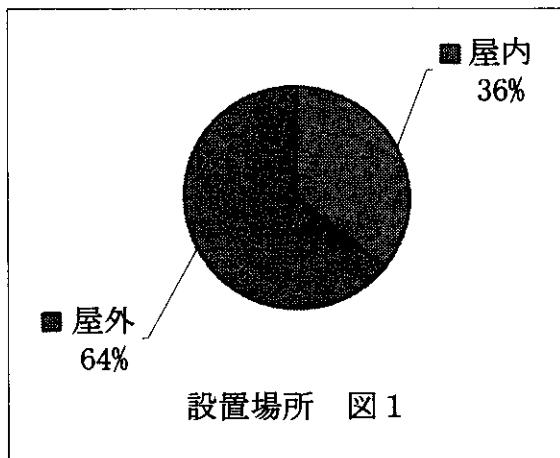
学校周辺の自動販売機の設置状況をみると、調査総数165台の内、市街地にあるのが144台で、学校の500m以内に69台、250m以内に12台が認められた。

高校周辺では、米子東高校の周囲500mに7台、米子南高校の周囲500mに2台、米子工業高校の周囲500mに9台、周囲250mに2台が認められた。

中学校周辺では、湊山中学校の周囲500mに、

28台、周囲250mに2台、東山中学校の周囲500mには、0台、後藤が丘中学校の周囲500mには0台であった。

小学校の周囲を見ると、明道小学校の周囲500mには2台、周囲250mには、1台、就将小学校の周囲500mには20台、義方小学校の周囲500mには16台、周囲250mに4台、啓成小学校の周囲500mに19台、周囲250mに3台認められた。



自動販売機が屋外にあることの方が多いことや、半分くらいは店員から見えない場所に設置しているということは未成年にとってたばこを買いやすい状況になっていることが明らかになった。通行人から見えやすい場所に設置されていたり、注意表示が貼ってあったりするのは未成年がたばこを買いにくくするのに役立つので、これが多かったのは良いことである。また、たばこの自動販売機は販売している時間が限られているはずであるが、24時間営業をしているところもあり、未成年がたばこを買いやすいのではないかと思われた。さらに、学校の通学路とタバコの自動販売機の数との関係を調べ、学生がどれくらい登下校の際にたばこを買いやさいかを調査した。学校によっては通学路にたくさん自動販売機がある学校もあるが、自分がたばこを買う立場だったらあまり通学路でたばこを買ったたりしないと思が、少なくとも通学路でたばこを買う学生についてはこの自動販売機は良い影響を与えないと考えられた。また、非喫煙者の学生にもたばこの広告や自動販売機が目に入るので、たばこへの受け入れやすさを形成してしまう恐れもあるかもしれない。特に一部の小学校の周囲に多くのたばこの自動販売機があったのは問題であると考えられる。

### 3. 駅におけるたばこ広告調査

JR米子駅・JR後藤駅・JR東山公園駅を調査した。3駅ともたばこ広告はなかった。構内禁煙の張紙は米子・後藤の2駅で存在した。看板広告今回の調査範囲内では1つだけ認められた。

### 4. 未成年者が集まる場所の禁煙・分煙状況

病院の調査は、鳥取大学医学部付属病院のみ調

査を実施した。2003年時点では分煙の措置が取られていた。病院内に自動販売機が2台存在した。2004年4月より病院が全館禁煙となる予定であるが、県下を代表するそして県の範たる病院として一層の禁煙推進が必要と考える。即ち全敷地禁煙と自動販売機の撤去が喫急の課題と考えられる。ボーリング場・ゲームセンターでは、分煙は認めらなかつたのが2/4、不十分空間分煙が1/4、喫煙コーナー設置が1/4であった。未成年は吸えないという注意書きまたは場内アナウンスあつたのが、2ヶ所、たばこを販売していたのが1ヶ所であった。喫煙についてのアナウンスがあつたのは0ヶ所であった。

パチンコ店では、全てが分煙なしであった(8/8)。未成年は吸えない注意書きまたは場内アナウンスあつたのが、38%、たばこを販売していたのが、75%であった。喫煙に対するアナウンスあつたのは25%であった。

スポーツ施設では、建物内禁煙が1/15、未成年は吸えない注意書きまたは場内アナウンスありが、0%、たばこの販売0%、喫煙に対するアナウンスありが0%であった。

ビデオ・CD店(レンタル+セル)をみると、分煙なしが1/2、不十分空間分煙が1/2、未成年は吸えない注意書き、または場内アナウンスありが1/2、たばこの販売が0%、喫煙に対するアナウンスありが0%であった。

本屋では、建物内禁煙が1/1、未成年は吸えない注意書きまたは場内アナウンスありが、0、たばこの販売ありが0、喫煙に対するアナウンスありが0であった。

公共施設では、全敷地内禁煙が1/5、空間分煙が1/5、不十分空間分煙が1/5、喫煙コーナー設置が1/5、不明が1/5であった。未成年は吸えない注意書きまたは場内アナウンスありが、1/5、たばこの販売ありが1/5、喫煙に対するアナウンスありが2/5であった。

スーパーマッケトをみると建物内禁煙が/6、不十分空間分煙が1/6、喫煙コーナー設置が4/6、未成年は吸えない注意書きまたは場内アナウンスありが、1/6、たばこの販売4/6、喫煙に対するアナウンスありが、2/6であった。

ホテルでは、全敷地内禁煙1/1、未成年は吸えない注意書きまたは、場内アナウンスありが、0、たばこの販売が0、喫煙に対するアナウンス

ありが1/1であった。

このように、未成年が集まりそうな場所であつたとしても、全敷地内分煙になっているところはほとんどないことが明らかになつた。たばこがその施設で販売されているかどうかは、施設の性格によるものと考えられるが、パチンコ店では高頻度で販売されていた。法律上禁止されているにもかかわらず、未成年に対して注意を払っている店は多くないことも明らかになつた。これだけたばこの害が取り上げられる現状にあっても、喫煙に対するアナウンスがされている施設も極めて少なかつた。

## 結論

米子市内の学校周辺の自動販売機の状況をみると、学校の周囲250m以内にも全自动販売機の10%弱が存在することが明らかになつた。子どもを喫煙に誘う状況として、自動販売機・娯楽施設などが上げられる。約1割の自動販売機、または娯楽施設にある自動販売機などは周りの人から見られることなくタバコ入手ができる状況にある。また、多くの飲食店を含む娯楽施設は十分な分煙措置を講じていないため、子どもあるいは非喫煙者が受動喫煙をする可能性が非常に高いと考えられた。

米子市内の子供の喫煙をとりまく状況をみると、一定の対策は取られていると思われるが、まだ改善の余地が大いにあると考えられた。今後は、施設管理者の健康増進法への理解・関心を深めるよう、行政や保健所からのより一層の働きかけが必要であると思われた。教育施設全敷地内での禁煙や、屋外自動販売機の撤廃など行政の介入が求められる。また、大学病院は他の一般病院の模範となるよう率先して自動販売機の撤廃・病院全敷地内禁煙を促進すべきだと思われる。

## 厚生労働科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）分担研究報告書

### 酒のテレビ広告に関する研究、2002年分データ分析

分担研究者 谷畠健生（国立保健医療科学院・疫学）曾根智史（同・公衆衛生政策部）

#### 研究要旨

未成年者の飲酒を取り巻く環境のなかでも広告をはじめとした飲酒に興味を持たせようとする社会的環境は重要である。本研究では、未成年者に影響を与えていていると考えられる広告媒体の中でも特にテレビ広告の焦点をあて、酒広告の実態と特徴を明らかにし、未成年者の飲酒行動への影響を考察した。

2002年度の研究班で行っていた、酒のテレビCM調査結果（7月初旬、8月初旬、11月中旬のそれぞれ1週間×24時間の東京地区民放5チャンネルで放送された全ての酒CM）の数量的分析方法を検討し、調査シートを作成し、分析結果をシートに記入し、その結果をコンピューター入力し、分析した。分析内容は、CM本数、CM秒数、放映曜日・時間帯、放映番組の分類、酒の種類、などであった。3週間で2874本のCMが放映されていた（7月初旬の1週間で944本、8月初旬で800本、11月中旬の1週間で1130本）。2000年調査に比べCM量は増加していた。曜日別にみると、3週間分を加えると、日曜日、土曜日が多く、少し差があつて木曜日、月曜日、金曜日、火曜日の順となる。したがつて、土日に多く、ウイークデーにはやや少ないといえる。次に放映時間帯をみると。7月は0時台、23時台、1時台、18時台、22時台の順に多かった。8月では、23時台、0時台、18時台、21時台、22時台、20時台の順に多かった。11月には、0時台、23時台、18時台、22時台、21時台、15時台の順に多かった。夏休み期間中である8月にCMの多い時間帯が早くなること、18時台や21時台のCM量が多いことなどは問題である。テレビ局別にみると、広告量の多いテレビ局と少ないテレビ局が存在した。番組の種類別にCM量をみると、報道・ドキュメンタリーが最も多く、次いで、バラエティ、スポーツ、ドラマの順であった。酒の種類別にみると、最も多いのが発泡酒で、次いで果物味の甘いお酒、ビール、日本酒、焼酎類であった。8月（夏休み中）には、中高生のよく飲むお酒の種類である果物味の甘いお酒の広告量が増加していた。これらは、青少年への影響が危惧される結果といえる。

#### A. 研究目的

未成年飲酒にはさまざまな環境要因が関与していると考えられているが、わが国では、特にテレビCMの問題がしばしば論議される。たゞこのCMが業界の自主規制により中止になってからは、薬物関連のテレビCMは、もっぱら飲酒のみで、青少年への悪影響が危惧されながらも、放映

され続けているのが現状である。

本研究では、酒のテレビCMが未成年者に与える影響を考察するための基礎資料とするために、酒CMの実態を数量的に把握することを目的とする。

#### B. 研究方法

2002年度の研究班で行っていた、酒のテレビCM調査結果（7月初旬、8月初旬、11月中旬のそれぞれ1週間×24時間の東京地区民放5チャンネルで放送された全ての酒CMの集計）の数量的分析方法を検討し、調査シートを作成し、分析結果をシートに記入し、その結果をコンピュータに入力し、分析した。分析内容は、広告数、広告病数、放映曜日・時間帯、放映番組の分類、鮭の種類、登場人物、提供情報の内容、警告表示などであった。

調査の実際は、ビデオデッキ5台を用いて東京地区での民放、5チャンネル（日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京）の1週間のすべてのプログラムを3回（のべ3週間）連続録画し、分析した。分析は、ビデオテープをすべて見て、酒CMをみつけたら、客観的数量的調査項目が記載されたシートに記録する、という方法で実施した。

### C. 研究結果

飲酒に関する広告調査のうちテレビ広告の数量的分析を実施した。前年度録画してあった、2002年の3時期それぞれ1週間分の東京地区的民放各社における酒CMの分析を行った。3週間で2874本（2000年調査では2402本）のCMが放映されていた（7月初旬の1週間で944本（2000年では994本）、8月初旬で800本（2000年では825本）、11月中旬の1週間で1130本（2000年では583本）。2000年調査に比べ増加したのは主に11月分の増加による。1放送局あたり、1日27本（2000年は23本）のCM換算となる。放映秒数でみると、この3週間で全民放の合計が45,354秒（12時間35分54秒）（7月の1週間で14,574秒（4時間2分54秒）、8月の1週間で12,765秒（3時間32分45秒）、11月の1週間で18,015秒（5時間15秒））であった。1民放、1日あたり432秒（7分12秒）の酒CMが流れていることになる。

曜日別にみると、7月は日曜日、土曜日、月曜

日、金曜日の順にCM本数、秒数とも多かった。8月は日曜日、土曜日、木曜日、金曜日、水曜日（金曜日と同じ）の順にCM本数、秒数ともに多かった。11月は、土曜日、日曜日、木曜日、月曜日、火曜日の順に多かった。3週間分を加えると、日曜日、土曜日が多く、少し差があつて木曜日、月曜日、金曜日、火曜日の順となる。したがつて、土日に多く、ウィークデーにはやや少ないといえる。次に放映時間帯をみると。7月は0時台、23時台、1時台、18時台、22時台の順に多かった。8月では、23時台、0時台、18時台、21時台、22時台、20時台の順に多かった。11月には、0時台、23時台、18時台、22時台、21時台、15時台の順に多かった。夏休み期間中である8月にCMの多い時間帯が早くなること、18時台や21時台のCM量が多いことなどは問題である。

テレビ局別にみると、どの月もテレビ東京の広告量が少なかった。7月は日本テレビ、8月はテレビ朝日、11月はフジテレビの広告量が多かった。3週間の合計ではテレビ朝日、フジテレビ、TBS、日本テレビの順に広告量が多かった。

番組の種類別にCM量をみると、報道・ドキュメンタリーが最も多く、次いで、バラエティ、スポーツ、ドラマの順であった。この順位は7月、8月、11月ともに変わらないが、8月では1週間の本数や秒数に占めるスポーツやドラマにおけるCMの割合が相対的に高くなっていた。

酒の種類別にみると、最も多いのが発泡酒で、次いで果物味の甘いお酒、ビール、日本酒、焼酎類であった。7月、8月はこの順位と同じであったが、11月は日本酒、ビール、焼酎類、果物味の甘いお酒の順であり、季節により広告する酒の種類を変えていることが示唆された。また、8月（夏休み中）には、中高生のよく飲むお酒の種類である果物味の甘いお酒の広告量が増加していた。これらは、青少年への影響が危惧される結果といえる。

### D. 考察

本研究により、酒のテレビCMは大量に、頻回に放映されていることが明になった。午後になればすでにCMが流れ始め、青少年がよくテレビを見る、プライムタイムやゴールデンタイムには多くのCMが流れていた。内容を含め、青少年への悪影響（酒を飲んでみたいと思わせるような）が心配される結果となった。

#### E. 結論

未成年者の目に触れる機会が多いと考えられる酒のテレビCMの分析を行った。青少年への影響がどの程度かは、この調査方法ではわからないが、数量的に多くのCMが流れていることが明らかになった。

#### F. 健康危機管理情報

特になし

#### G. 研究発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1 月別局別曜日別にみた酒テレビCM本数

放映月	チャンネル	日	月	火	水	木	金	土	合計		
7月		4	61	22	17	28	17	29	46	220	
		6	41	31	28	23	22	22	45	212	
		8	53	27	20	18	15	20	42	195	
		10	40	36	16	25	25	29	52	223	
		12	29	9	5	9	8	13	21	94	
小計			224	125	86	103	87	113	206	944	
8月		4	47	8	14	14	23	20	32	158	
		6	28	18	17	23	22	14	27	149	
		8	34	7	19	19	24	24	32	159	
		10	41	37	35	41	42	35	46	277	
		12	13	6	6	6	9	10	7	57	
小計			163	76	91	103	120	103	144	800	
11月		4	37	26	27	28	31	24	28	201	
		6	49	25	34	22	39	30	48	247	
		8	51	46	46	41	45	25	58	312	
		10	50	27	18	27	29	29	66	246	
		12	27	14	10	15	10	17	31	124	
小計			214	138	135	133	154	125	231	1130	
総計			601	339	312	339	361	341	581	2874	

表2 月別局別曜日別にみた酒テレビCM放映秒数

放映月	チャンネル	日	月	火	水	木	金	土	合計		
7月		4	930	345	330	429	270	450	720	3474	
		6	645	480	420	345	360	330	690	3270	
		8	825	405	315	270	240	300	645	3000	
		10	600	540	255	390	375	435	780	3375	
		12	480	135	75	135	120	195	315	1455	
小計			3480	1905	1395	1569	1365	1710	3150	14574	
8月		4	720	120	270	240	420	345	540	2655	
		6	480	300	255	345	360	210	450	2400	
		8	555	105	300	300	360	375	525	2520	
		10	630	600	525	630	645	525	690	4245	
		12	270	75	90	90	150	150	120	945	
小計			2655	1200	1440	1605	1935	1605	2325	12765	
11月		4	615	405	495	480	495	390	420	3300	
		6	825	420	540	345	615	465	795	4005	
		8	795	750	705	615	675	435	900	4875	
		10	780	435	285	435	465	435	1020	3855	
		12	465	225	150	240	165	255	480	1980	
小計			3480	2235	2175	2115	2415	1980	3615	18015	
総計			9615	5340	5010	5289	5715	5295	9090	45354	



表5 番組種類別酒CM(本数)

放映月	チャンネル	アニメ	スポーツ	ドラマ	バラエティ	音楽	報道	その他	複合	総計
7月	4		44	9	48	1	67	51	0	220
	6			11	53	11	82	55	0	212
	8	2	22	10	39	1	68	53	0	195
	10		26	18	30	1	75	73	0	223
	12		5	2	22	4	28	33	0	94
小計		2	97	50	192	18	320	265	0	944
8月	4		42	9	34		44	29	0	158
	6		23	28	28	4	57	9	0	149
	8	5	37	11	33	1	43	29	0	159
	10	1	29	61	55	5	96	30	0	277
	12		6	8	15	2	20	6	0	57
小計		6	137	117	165	12	260	103	0	800
11月	4	4	33	24	48	1	65	26	0	201
	6	1	34	33	50	1	95	23	10	247
	8	6	66	24	85	6	91	32	2	312
	10		36	43	26	1	82	44	14	246
	12		13	7	30	2	24	45	3	124
小計		11	182	131	239	11	357	170	29	1,130
総計		19	416	298	596	41	937	538	29	2,874

表6 番組種類別酒CM(秒数)

放映月	チャンネル	アニメ	スポーツ	ドラマ	バラエティ	音楽	報道	その他	複合	総計
7月	4		710	165	735	15	1,009	840	0	3,474
	6			195	810	165	1,275	825	0	3,270
	8	30	345	150	585	15	1,065	810	0	3,000
	10		405	285	450	15	1,125	1,095	0	3,375
	12		75	30	330	60	450	510	0	1,455
小計		30	1,535	825	2,910	270	4,924	4,080	0	14,574
8月	4		720	165	570		735	465	0	2,655
	6		375	450	435	60	930	150	0	2,400
	8	90	570	165	525	15	690	465	0	2,520
	10	15	435	960	840	75	1,470	450	0	4,245
	12		90	135	225	30	360	105	0	945
小計		105	2,190	1,875	2,595	180	4,185	1,635	0	12,765
11月	4	60	525	435	795	15	1,005	465	0	3,300
	6	15	570	555	765	15	1,545	390	150	4,005
	8	90	1,020	375	1,350	90	1,425	495	30	4,875
	10		570	675	405	15	1,320	660	210	3,855
	12		195	120	465	30	435	690	45	1,980
小計		165	2,880	2,160	3,780	165	5,730	2,700	435	18,015
総計		300	6,605	4,860	9,285	615	14,839	8,415	435	45,354





## 研究成果の刊行に関する一覧表

### 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1. Osaki Y, Minowa M, Suzuki K, Wada K	Adolescent alcohol use in Japan, 1996.	Yonago Act a Medica	46(2)	35-43	2003
2. 鈴木健二、尾崎米厚、簗輪眞澄、和田清、大井田隆、土井由利子、谷畠健生	未成年者飲酒問題全国調査結果:1996年と2000年調査の比較	日本アルコール・薬物医学会雑誌	38(5)	425-433	2003
3. Osaki Y, Minowa M, Suzuki K, Wada K	Adolescent smoking behavior in Japan, 1996	Jpn J Alcohol & Dependence,	38(6)	499-507	2003
4. 尾崎米厚、鈴木健二、和田清、山口直人、簗輪眞澄、大井田隆、土井由利子、谷畠健生、上畠鉄之丞	77. わが国の中高生の喫煙行動に関する全国調査—2000年調査報告—	厚生の指標	51(1)	23-30	2004
5. 尾崎米厚、鈴木健二、和田清、山口直人、簗輪眞澄、大井田隆、土井由利子、谷畠健生、上畠鉄之丞	78. わが国の中高生の飲酒行動に関する全国調査—2000年度調査報告—	厚生の指標	51(2)	24-32	2004
6. Osaki Y, Mei J, Tanihata T, Minowa M	Cigarette brand preferences of smokers among university students in Japan.. Preventive Medicine,	Preventive Medicine	38(3)	338-342	2004
7. 尾崎米厚	シンポジウム未成年喫煙の実態と関連要因について	日本公衆衛生学会誌	50(10)	71	2003
8. 尾崎米厚、谷畠健生、曾根智史、福島哲仁、嘉悦明彦、岡本幹三、岸本拓治、原口由紀子、南前恵子、倉舗桂子	青少年雑誌におけるたばこ広告の動向分析	日本公衆衛生学会誌	51(10)	602	2003
9. 尾崎米厚、谷畠健生、簗輪眞澄、嘉悦明彦、岡本幹三、岸本拓治	わが国の未成年者によるたばこ消費量の推計(1996、2000年)	Supplement to Journal of Epidemiology	14(1)	172	2004
10. Osaki Y, Tanihata T, Sone T, Fukushima T, Kaetsu A, Okamoto M, Kishimoto T	A survey on cigarette advertisements and brand preferences among Japanese adolescents	Abstract book. 12 <sup>th</sup> World Conference on Tobacco or Health		464-465	2003

### 新聞掲載記事》

1. 朝日新聞「未成年の喫煙 年46億本」 尾崎米厚  
2004年2月14日 総合2面 朝日新聞